



2018年10月
第70号

☎ 111-0052
東京都台東区柳橋2-22-3
ウェスレアン・ホーリネス
神学院
☎ 03-3851-3762
FAX 03-3851-3858
振替口座番号
00130-4-364534
名義 ウェスレアン・ホーリネス神学院
発行人 山崎 忍
編集人 文カンホ
後藤貴子
印刷所 ヨ ベル

「これからの神学院のために
さらなる祈りを」

教務主任 本間尊広



今年の5月には、神学院創立30周年記念礼拝・感謝会の時が持たれましたが、昨年11月の教職セミナーと、今年3月の年会のプログラムの中でも、創立に至るまでの歩みと神学院創立時の証しを聞く機会を得ました。30年前、当時筆者は大学生でありましたが、諸先生方と神学院で学ぶことを信仰をもって決断された当時の学生の方々の歩みを近くで見させていただきながら、自分自身も献身を志す者として、同じ道を歩みたいと深く心に願わされたことでした。その頃、30年が経ち、その間、

神学院で学ばせていただき、主の憐れみの中で教会、また神学院に仕える者とされて今を歩んでおりますが、信仰という杖のみをもって主の導きに従われた創立時の先生方や学生方とは、自分自身がずいぶんとかげ離れてしまっているという思いを抱きながら証しをうかがい、原点に立ち戻らうと思わされたことでありました。

神学院が立ち上がり、ますます何もないところからこの学校を築かれたのであります。それを祈りと献げものをもって支援くださった教会、諸兄弟がおられました。そのような祈りと支援の中、この神学院をここまで形成してきたエネルギーとあつたであります。もちろん力は常に主から来るものですが、主が特別に選び、この事業のために用いられた御器おひとりおひとり、やはり偉大な方々であると言わざるを得ません。「創立時の先生方は、神学院を立ち上げた時、あなたたちより若かった」と、よく言われます。年齢が何かを決めるわけではありませんが、いまだに先輩の先生方に頼りっぱなしの自らの甘さを思い知らされます。

神学院の立ち上げ、そして30年間の歩みは、主に促された聖徒たちの献身と祈りと献げものによって現れる信仰の力によって進められてきました。これからの歩みもまた同じ信仰なしに進むことのできないものです。何もないところから築いていくのと同じ献身と祈りをもって、すでにあるものをしっかりと受け継いで主の栄光を拝することができるようになっていかなければなりません。そのような危機感を持ちながら、祈りを共にしていただきたい願います。

いつも、入学者が与えられるようにとお祈りをしてくださり感謝いたします。この祈りは変わりません。それに加えて、世代交代期にある教師陣のために、常に人材が備えられるようお祈りください。聖書には「彼らが主を礼拝し、断食している」と、聖霊が告げた。「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出さなさい。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。」そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を

置いて出発させた。聖霊によって送り出されたバルナバとサウロは、セレウキアに下り、そこからキプロス島に向け船出し、サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神の言葉を告げ知らせた（使徒13・25）とあります。主が選び召された献身者を、教会の祈りにふさわしく整えて、宣教の場に送り出す神学院であることができるようにと、アンテオキア教会の断食の祈りのようにさらに心を注ぎだして祈ってまいりたく願います。

◆神学院夏期派遣報告◆

◆夏期派遣を終えて

神学科4年 堀部舜

今年の夏期派遣では、4か所まで奉仕させて頂きました。

まず、聖日派遣先の渋谷教会が所属する活水の群の研修会に参加しました。活水の群は、聖化を強調するバックストンの流れの



団体で、教派の違いはあまり感じず、個人の多様性の方が大きいと感じました。説教は聖書を重んじており、青年たちはまっすぐで良い交わりをしていました。神学生などによる青年賛美チームは、霊的にも音楽的にも良く準備されており、臨在の溢れる賛美でした。キリスト者学生会の大嶋重徳先生による信仰継承の講演での、子どもの年齢層別の実践的アドバイスは非常に有益でした。3つの神学校の4人の神学生と交わりを持ってたことも感謝でした。交わりと見聞を広める貴重な機会でした。

次に、渋谷教会の教会独自の修養会にも参加しましたが、特に、教会員一人ひとりの証しが素晴らしく、ゆつたりとした時間の中で、交わりを深めることができました。

信越キャラバンでは茅野・蓼科・駒ヶ根の3教会を訪問し、特に、2教会で持たれた計5日間の子ども会が印象的でした。密なスケジュールでしたが、特に岡聖志神学生が奏楽でもゲームでも大きな役割を担って下さり、集中的な子ども会プログラムを進め方を学ばせて頂きました。両教会とも、未信者だけでなく教会との関係形成はできているお子さんが大半で、短い聖書の時間で、どのように伝えるかがチャレンジでした。宣教に取り組む教会員の方々との交わりに大変励まされ、感謝でした。

九十九里では、障がい者施設や高齢者のデイサービスを訪問し、教会を会場としている空手道場に來られる地域の方ともお会いでき、地域との多様な関わり方を見ることができました。幼稚園では子ども会をして、私

は幼稚園児の会の経験がほとんどなく不慣れでしたが、真剣に聞いてくれて、課題と手ごたえを両方感じました。

実践的な経験の一つ一つ積んで、何をやるべきかを学んだ夏でした。

◆夏期派遣の恵み

神学科4年 黄雪琴

神学生として最後の夏期派遣の奉仕は上大岡キリスト教会、紀泉台ウエスレー・チャペル、二俣川キリスト教会の3教会での子どもキャンプのお手伝い、礼拝メッセージでした。

上大岡キリスト教会は新しい教会としての新しい歩みの中、地域の子どもたちにチラシを配り、夏の子ども会を用意されていました。紀泉台ウエスレー・チャペルは恒例となりますが、1日の子どもキャンプが備えられ、地域の子どもたちに福音を伝えていきます。二俣川キリスト教会も近所の公園で遊ぶ子どもに声を掛け、素敵な子ども会を



取り次ぎ、紀泉
台ウエスレー・
チャペルでは

「この町を見届け
よう、惜しむ神
と共に」と題し
てヨナ書から取
り次ぎ、二俣川
キリスト教会で
は「半端でない
神の愛」と題し
てローマ書から
取り次ぎました。

夏の大きな恵みの一つでした。

◆教会の頭はキリスト

神学科2年 桑原晴美

母教会である東京若枝教会の
小学科キャンプと中高科キャン
プを終え、満たされた心で最初
に向かったのは千葉県旭市でし
た。旭キリスト教会で、林部先
生御一家と信徒の方達が、キリ
ストにある家族としてこの教会

くてはと思うと、人前で祈る事
にプレッシャーを感じるようにな
ってしまっていたのです。でも、
どんなにしようもない祈りだ
らうと、祈りたくないと思う
時があったとしても「私は祈る
しかないんだ、祈るんだ」と宣
言出来ました。この時から私の
祈りへの気持ちは、はつきりと
変わりました。拙い祈りですが
自由に祈れるようになり感謝で
す。

不慣れと準備の足りなさがあり、
緊張の中でしたが、主に支えら
れて尊い御言葉の奉仕ができた
ことを主に感謝します。御言葉

を黙想する中、他の誰かよりも、
自分自身こそ語られた主の言葉
に多く教えられ、散漫になりや
すいわたしの心が大切な時に、
大事な御言葉を通して守られ、
あるべき所とあるべき道のりに
留められ、整えられたことを感
じます。

行く所々で、新しい友と出
会ってキリストの恵みを分かち
合い、また古き友と親しい交わ
りを持つことができたのもこの

を建て上げていることを実感さ
せられたのは、教会堂のワック
スがけをした時でした。小学校
1年生になった愛十君の力も大
きく、子ども達も立派な働き手
として、大人も子どもも声を掛
け合って働く姿に希望を感じま
した。また、「祈れないと思う時
それはもうサタンにやられてい
るんだ、祈るしかないんですよ」
と説教の中で語って下さった先
生の言葉が心に刺さり、私が人
前で祈る時に感じていたプレッ
シャーや恐れが吹き飛びました。
神学院に入りいつの間にか、神
学生なんだから祈りも成長しな



また18日から20日までは二俣
川キリスト教会に行かせて頂き
ました。普段神学院で教えて頂

準備されていました。私は奉仕
を通して、それぞれの教会が置
かれた地域にしっかりと根ざし
て、牧会と伝道に励まれている
ことを強く教えられました。教
会の大小、人数の多少を超える
ホーリネスの輝き、兄弟愛の温
かさが私に伝わりました。また、
献身者のために熱き祈りが捧げ
られていることに感動しました。
主の御名を崇めます。

3つの教会での礼拝メッセー
ジはそれぞれの教会に与えられ
た主の言葉を取り次ぎました。
上大岡キリスト教会では「王者
帰還」と題して使徒言行録から

いている湯澤先生方が実際に現場で牧会されているお姿を見せて頂いたのは感謝でした。開拓伝道された教会で先生方が「主のみわざを見せて頂けるのは楽しいですよ」と喜んで生き生きと働いておられる姿を見て、目に見えるところは大きい教会、小さい教会、色々ですが、どの教会も頭はキリストであることであらためて教えて頂きました。どの教会にも神様の祝福は溢れているのです。それを押し止めることのない一人一人でありたいと願わされました。先生が「礼拝と聖餐が行われるところに神様は人を送って下さる」とおっしゃった言葉が今も心に残っています。

◆夏期派遣を終えて

神学科2年 柳泰鉉

今年も本当に恵まれた夏期派遣でした。

まず、淀橋教会でサマーフェスタの準備で、外での集会のための舞台と幕を設置する作業を



しました。本当に暑い日だったのですが、神様に守られて無事にすべての準備ができました。境の谷めぐみ教会では「夏祭り」という子ども集会があり、私は仕事を担当して、子どもたちと楽しく遊びました。集会は礼拝が終わってから始まったのですが、教会の信徒の方々が全員残って、奉仕をしてくださったので感謝でした。

遠州キリスト教会では2日間、子どもキャンプがあり、私はマタイによる福音書18章10〜14節

の聖書箇所から、「大丈夫？」というメッセージをしました。実際に礼拝で証しをしました。実際に子ども前でメッセージをするのは初めてだったので、本当に緊張しました。メッセージの途中で子どもたちが騒いだ時は、どうすればいいか分からなくなり、汗をかきほども慌ててしまいました。

また、浜松ウエスレアン教会では、子ども集会がありました。が、町の祭りと重なり、子供が2人しか来なかったため、寂しかったです。

三島西キリスト教会では知的障がいを持つている方々との集会有り、駒ヶ根パノラマ愛の家に行きました。集まった方々は皆、賛美が大好き、お祈りが大好きで、本当に純粋な信仰を持っていました。彼らとの交わりを通して、私は多くの感動と恵みを受けました。

今年の夏期派遣ではほとんど一人で行ったので不安もたくさんあり、かなり緊張してしまいました。また、奉仕の準備がちゃんとできなかったのですが、先生

方は私を励ましてくださり、優しくしてくださいましたので、無事に奉仕することができました。礼拝や集会の恵み、先生方の素晴らしい働き、信徒の皆さんの優しさ、美味しい食事など、全てが感謝でした。夏期派遣を通して私を成長させてくださり、多くの恵みを注いでくださった神様に感謝いたします。派遣教会の先生方、教会、また信徒の方々のためにお祈りいたします。

◆夏期派遣を終えて

神学科1年 岡聖志

いつも私たち神学生のためにお祈りとお支えをありがとうございます。私はこの夏、信越キャラバンとして、茅野、蓼科、駒ヶ根の3教会で奉仕しました。また淀橋の中高生キャンプと青年キャンプにも参加し、母教会である山形南部教会でも奉仕する機会が与えられました。賛美奉仕やキャンプでの司会、礼拝での証、祈祷会でのメッセージなどをし、特に小さなお友だち

と関わる機会が多く与えられました。

今回の夏期派遣を通して、様々なことを教えていただきました。まず学ばされたのは、お友だちの素直な信仰でした。一生懸命御言葉を覚えるお友達の姿や、素直に主イエスを信じて愛するお友だちの姿を、夏期派遣全体を通して何度も見る事ができました。小さいながらも主イエスを信じバプテスマを受けたいと言うお友だち。ノンクリスチャンの家庭で、家庭環境



が複雑な中でも主イエスを信じると決心するお友だち。そのような姿を見ることができたことは、私にとって大きな喜びでした。

また、信徒の方々の献身的な姿にも学ばされました。特に同世代のクリスチャン、教会学校の先生たちが、学業や仕事がありながらも献身的に時間を割き、お金を捧げている姿に感銘を受けると同時に、自分も大きなチャレンジを受けたような気がしました。もう一度自分のこれまでの歩みを点検させられ、献身の思いを新たにさせられました。

今回の派遣全体を通して、自分なりの用いられ方があるのだということを発見でき、感謝でした。自分の内向的な性格もあり、今回の派遣に関しては少し不安がありました。初めて会う人にどう接したら良いのだろうか。こんな自分が、伝道したり牧会したりできるのだろうか。しかし結果的には様々な良い交わりを持つことができ、また自分自身も大きな励ましを受けま

した。弱く小さな自分ですが、祈りつつ進んでいくときに神様が用いてくださること。もちろん栄光を受けるのはただただ神様ですが、その神様の大きな業に自分も携わることができるとのできた夏期派遣でした。

◆夏期派遣を終えて

神学科1年 船津悠大

私は今回の夏期派遣で、淀橋教会、九十九里みぎわ教会、塩谷キリスト教会に派遣されました。全体を通して感じたことと、九十九里での体験を書きます。

全体を通して感じたことは、神様が各教会に

ふさわしい牧師先生を送ってください、すばらしい助け手、信徒さんを置いてくださるといふことです。牧師先生がその

地域に合わせて、また、自分の与えられている賜物を用いて教会と地域に仕えている姿が印象的でした。そして、教会における主の働きを助けるために、献身的に捧げてくださっている信徒さんが必ずいました。教会の働きは人間の働きを超えて、神様が先頭にたつて必要を満たし、進めさせてくださるということを感じました。自分の能力の限界や周りの状況だけを見て不安になるのではなく、そこに注がれている神様の恵み、助け、もつと言えば神様御自身に目を止め、信頼して一歩を踏み出す大切さを思い知らされました。

次に九十九里みぎわ教会での体験です。ここでは小寺隆先生の



関係の幼稚園、障がい者施設、高齢者施設を見学しました。以前までは、牧師が教会以外の働きをするのはあまり理想的ではないと偏見を持っていました。しかし、ここでの経験を通して、地域に根差して働くことを通してしか出会えない方々、教会にいたるだけでは届くことができなかった領域に関係が広がっていくことを実際に見てきました。また、小寺先生との会話の中で、宣教は国によって、文化によって、地域によって、様々なことを考慮しながら進めていくことの大切さを知りました。自分の理想や、他人の成功例に固執するのではなく、置かれたその場所に合わせ、柔軟に宣教を考えていく、地域に積極的に関わっていく、神様の御声に聞き従っていく大切さを学びました。

◆退修会報告

教務主任 本間尊広

今年も9月4日～6日の日程で、山梨県山中湖村にあるサレ



ジャン・シスターズ山中・雪の聖母修道院を会場に退修会が行われました。修道院と言っても、わたしたちがリラックスして過ごすことができるようにとてもよく配慮してくださり、近年4度目の訪れとなりました。毎食おいしいお食事をいただきながら、ゆったりとした雰囲気の中で、学び、祈り、交わる時間を持つことができました。

退修会は、日常の務めから静まることのできる場所へと退き、靈修の学びと祈りによって、夏期派遣伝道を振り返り、2学期

からの学びに備えるために毎年行われています。テキストから学び、学生の夏期派遣伝道の報告を聞き、最後に聖別会で主のお取り扱いを受けて、学びの場へと帰っていきます。今年、サムエル・ブレンダ著『救霊者の秘訣』を学びました。主に仕える者が、どのような日常生活を送るのか、きよめを受けたキリスト者として、生活のさまざまな場面で全く明け渡すことが改めて問われた学びでした。

プログラムの合間や、食事の時間、また学年ごとの交わりの時間や、外出・散策の時間を通して、教室だけでは得られない学生・教師間の交わりの深まりも与えられて感謝でした。宿舎から車で15分程度のところにある忍野八海で、澄みきった水の池と、大きな富士山を望む機会が与えられ、感謝な時間を持つことができました。

◆編集後記◆

神学院のためにお祈りとお支

えを心から感謝します。7月の関東夏期聖会から始まった夏期伝道期間も祝され、学生たちは、貴重な訓練の場を与えられ、それぞれが霊的に成長する日々を送ることができました。学生たちを快く受け入れ、伝道の機会をお与えくださいました諸教会の先生方、信徒の皆様にご心から感謝いたします。

神学院便り第70号では、神学院教務主任の本間尊広先生の巻頭言と退修会の報告、在校生による夏期伝道の恵みの報告、そして、献金者一覧を掲載させていただきました。

現在、夏期伝道、退修会、前期特講を経て、後期の授業が始まっております。4年生はいよいよ、卒論の一時提出を終え仕上げに取り組みながら、教師試験へと備えてまいります。11月には、第一回神学院入試が控えております。一人でも多くの入学者が与えられるように、また在校生それぞれの霊性、健康が守られ、後期の学びが祝されますように、また指導する教師の健康が支えられますようにお祈りください。



ウェスレアン・ホーリネス神学院 入試要綱

受験資格

- 大学・短大卒業もしくはそれと同等の学力を有すると認められた者
- プロテスタント教会に所属し、受洗後2年以上の者
- 専心宣教師の業に仕える明確な召命感をもち、このために献身し、牧師の推薦を受けている者

受験手続き

以下の書類を整え、本学院事務所に郵送または持参してください。なお神学院所定の用紙はホームページにもありますので取り寄せてください（①～⑤は学院所定）

- ①入学願書 ②履歴書 ③信仰歴 ④所属教会牧師の推薦状 ⑤召命に関する短文（400字×3枚程度） ⑥最終学校卒業証明書 ⑦同成績証明書 ⑧健康診断書

1. 入学試験日

- 第1回 2018年 11月 20日（火） 試験科目：聖書、英語、ホーリネス
 第2回 2019年 2月 5日（火） 試験科目：聖書、英語、ホーリネス
 第3回 2019年 3月 5日（火） 試験科目：聖書、英語、ホーリネス

2. 願書提出締切

試験日の2週間前までに提出して下さい。

3. 受験料2万円

願書と一緒に支払い下さい。

4. 全寮制

本学院は全寮制です。特別の事由のある場合には、通学もできます。寮から本学院までの交通費は通学事由が適当と認められた場合には援助します。また授業のある日の昼食は後援会等が援助しています。

5. 給費制・貸与制度

授業料、寮費、食費等を給付を受けることができます。また、事情を具して願い出て承認を受けた者は授業料、寮費、食費等についてそれぞれの必要に応じて貸与を受けることができます。

6. 学費・寮費

入学金	50,000円	授業料 年額	230,000円
寮費 月額	5,000円	食費 月額	15,000円

- 上記の外に研修費・教材費があります。
- ※寮費・食費はその時の事情で変動することがあります。

ウェスレアン・ホーリネス神学院

連絡先：〒111-0052

東京都台東区柳橋2-22-3

TEL 03(3851)3762